

防災かわら版

「わたしの避難計画」

問合せ先 防災安全課防災係 ☎41145

西中に建設されたアパートは津波避難ビルに指定されました



津波避難ビルが完成しました

このたび、西中地区で建設されていたプレバール西中(株式会社A.P.M.所有)が完成し、津波避難ビルの使用・管理について協定を締結しました。

鉄筋コンクリート造4階建ての共同住宅で、北側駐車場にある専用の入口から外階段を使って屋上まで避難することができます。屋上面積は約169㎡で、収容人数は169人となっています(1㎡あたり1人として換算しています)。

今後は、実災害時に利用することができ、防災訓練等でも活用していきます。

「わたしの避難計画」

私たちの暮らす下田市は、天城山系の南端から太平洋に至る豊かな自然に恵まれたまちです。豊富に湧出した温泉や幕末開港の歴史、美しい海を利用したマリンスポーツなど、多くの観光資源に恵まれています。時に自然の脅威にさらされることもあります。

近年では、様々な自然災害が日本全国で発生しています。当市においても、台風による斜面の崩土や停電等の被害が発生しています。

また、風水害だけでなく地震にも警戒が必要です。フィリピン海プレートとユーラシアプレートが接する南海トラフ全域で、大規模地震発生の危険が高まっています。南海トラフ巨大地震が発生した場合、市では、最大33mの津波が押し寄せ、市内の建物の4分の1が使用できなくなると想定されています。

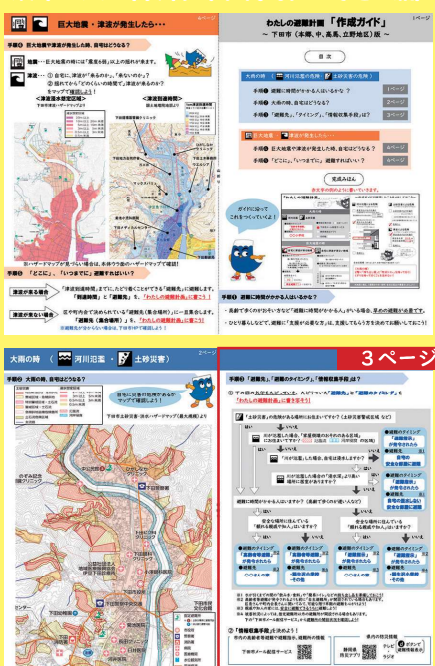
災害が起きたら、いつ、どのように行動するか「わたしの避難計画」を活用して考えてみましょう。

県では、「地震・津波対策アクションプログラム2033」の元、自然災害による被害を想定した8割減らすことを目標に様々な事業に取り組んでいます。その取り組みの一つとして「わたしの避難計画」があり、避難行動を明確化することで早期避難の意識向上を図っています。今年度は津波浸水区域を対象に、わたしの避難計画の作成・配布を行っています。

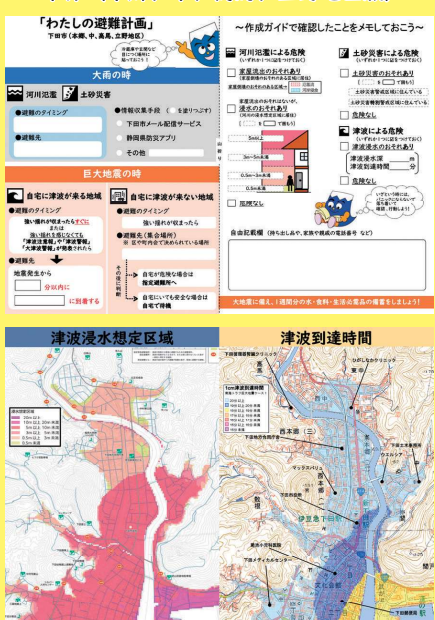
「わたしの避難計画」とは、災害時における家族の状況等に応じ、「どのタイミング」で「どこに」避難するかをあらかじめ整理した避難計画書のことです。計画書を作成することで、平時から自身の避難行動を考えるきっかけとなり、最終的には住民自らの力で「逃げ遅れによる被害をなくす」ことを目指しています。



作成ガイド(本郷、中、高馬、立野地区版)



本体(本郷、中、高馬、立野地区版)



「わたしの避難計画」は、2月かいらんで配布しており、防災安全課でも配布しています。

「わたしの避難計画」はどうやって作るの?

「わたしの避難計画」は、作成ガイド(上図)と本体(下図)の2部で1セットになっています。作成ガイドを参考にしながら、必要な情報を本体に記入していきます。

手順1: 家族状況の確認

家族の中で避難に時間がかかる人があるか確認してください。避難に時間がかかる場合、早めの避難を心がけ、避難時に支援が必要な場合は、支援してもらう方を決めてお願いしておきましょう。

手順2: 風水害時のリスクを確認

土砂災害・洪水ハザードマップから自宅を探し、災害の危険があるか確認しましょう(色ごとに危険区域を分けています)。

手順3: 風水害時の避難について確認

手順2の情報をもとに、3ページのフローチャート(流れ図)で避難先、避難のタイミング、情報収集手段について確認しましょう。確認できたら、本体の「大雨の時」の欄に記入しましょう。

手順4: 津波災害時のリスクを確認

津波ハザードマップから自宅を探し、津波浸水区域と津波到達時間について確認しましょう(色ごとに浸水深、到達時間を表しています)。自宅が見つからない場合は、本体裏面の拡大図をご利用ください。

手順5: 津波からの避難について確認

自宅に津波が到達する地域にお住まいの場合は、何分以内にどの避難先に到着するかを本体に記入します。津波が到達しない場合は、区や町内会で決められている避難先を記入します。

手順6: その他

作成ガイドで確認したことを本体右側の欄にメモしておきましょう。それぞれの災害による危険性を、簡易的に確認できます。自由記述欄には、非常持出品の場所や家族の連絡先などを記入しましょう。